

編集後記

- ◇ 本号が読者の皆様のお手元に届く頃は、収穫の秋たけなわであり、令和5年産のサツマイモや北海道産のジャガイモが豊作となっていることを期待している。ここ数年、7月から8月にかけての猛暑は厳しく、今年、挿苗の遅れた家庭菜園のサツマイモは、頻繁に灌水してなんとか乗り切ったが、温暖化への対応は重要度を増しているように感じられる。
- ◇ 猫の額ほどの狭い我が家の庭であるが、グリーンカーテンの「やまのいも」のほか、高木化したミカンの下には数株の「こんにゃくいも」が自生している。独特の草姿ゆえ、たまに訪問される方に謎解きを迫るけれども正解される方は少ない。5キロほど離れた菜園ではサツマイモが生育中であるが、その片隅にはキクイモも自生している。
- ◇ 小平市の自宅周辺には「さといも」畑が多い。地理的には埼玉県の新潟市に近く、今回、統計情報で紹介したように、新潟市の作付面積は全国5位にランクインしている。農水省の行政面では「いも類」は「甘しょ・馬鈴しょ」と同義であるが、「さといも」「やまのいも」「こんにゃくいも」の方が歴史的には古くから食されている「おいも」である。
- ◇ 今回、調査・研究のコーナーで、千葉県農林総合研究センターの鈴木健司氏に「さといも」の生態特性と品種育成などについて幅広く解説いただいた。近年、新品種や省力栽培技術の普及、集出荷施設の整備等により生産・出荷を伸ばしている地域もあるので、引き続き、レポートしていきたい。
- ◇ 本年、7月にサツマイモ関係のお二人の大先輩が逝去された。一人はサツマイモ産業を支えてきたコガネセンガンを育成された坂井健吉氏であり、もう一人はサツマイモ歴史文化研究の第一人者であった井上浩氏である。お二人とも、いも類振興会の評議員等として、たいへんお世話になりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

いも類振興情報 第157号

2023(令和5)年10月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社